



学内広報



2001. 9. 27
東京大学広報委員会

医学部附属病院新入院棟で総合消防訓練を実施



(2 ページに関連記事)

目次

一般ニュース	2
総長の海外出張、評議会（9月18日（火））承認事項	
部局ニュース	2
医学部附属病院新入院棟で総合消防訓練、北海道演習林が全国ネットで90分放送された、旧駒場寮建物明渡しの強制執行について、佐々木総長が柏キャンパスの現状を視察、堂本千葉県知事が柏キャンパスを訪問、海洋研で深海掘削研究船を公開	

掲示板	4
第26回伊豆・戸田マラソンレースの開催、学生相談所主催「就職について考えるワークショップ」のお知らせ、小石川植物園後援会主催第32回講演会のお知らせ、物性研究所国際シンポジウム一般講演会の開催、夏季休業期間における診療の一部変更について、インテリジェント・モデリング・ラボラトリー オープンハウス（一般公開）の開催について、大学史史料室の休室のお知らせ	
噴水「医科研の生き物たち」	7
淡青評論「蚊帳の効用」	8

≡ 一般ニュース ≡

総長の海外出張

佐々木総長は、平成13年10月3日（水）～平成13年10月6日（土）の期間、東アジア研究型大学協会（AEARU）第7回総会/第9回理事会及び香港科学技術大学創立10周年記念シンポジウム出席のため香港（中華人民共和国）へ、平成13年10月11日（木）～平成13年10月14日（日）の期間、ハーバード大学学長就任式典に出席のためアメリカ合衆国へ、また平成13年10月19日（金）～平成13年10月26日（金）の期間、オックスフォード大学卒業式出席及びケンブリッジ大学学長訪問のため連合王国へ出張する。

評議会（9月18日（火））承認事項

附属図書館問題懇談会の設置

平成14年度概算の副学長増員要求にともなう限定的な課題について、全学的な見地から検討を行うため、「附属図書館問題懇談会」を評議会の下に設置された。

大学院学則の一部改正

東京大学大学院学則の一部を改正する規則

特別な事由による休学に関し、休学期間の年限を弾力的に運用することを目的として、所要の改正を行なったものである。

附 則

この規則は、平成13年9月18日から施行する。

大学間学術交流協定

- ・東京大学と京都府立医科大学との特別研究学生交流に関する大学間協定の締結
- ・東京大学とシカゴ大学との学術交流に関する大学間協定の終結

≡ 部局ニュース ≡

医学部附属病院新入院棟で総合消防訓練

医学部附属病院（加藤進昌病院長）は、新入院棟（15階建て、1046床）の完成を機に9月17日（月）10時より東京消防庁航空隊、本郷消防署との合同消防訓練を実施した。

本郷消防署長より「一日署長」の任命を受けた病院長自ら「現場」の指揮をとった。

訓練は、屋上ヘリポートを活用した東京消防庁航空隊の大型救急ヘリコプターと病院職員の連携による救急患者の受け入れ訓練、入院棟3階のゴミ置き場を出火場所と想定した消火活動や避難誘導をした。

また、はしご車2台による一斉放水訓練も実施し、講

評ののち、合同消防訓練を終了した。



（医学部附属病院）

北海道演習林が全国ネットで90分放送された

北海道放送がおよそ3年の月日をかけて北海道演習林内において撮影・制作した番組「日本で一番美しい森～富良野から地球を救おう～」が去る8月18日（土）にTBS系列の全国ネットで90分間放送されました。当日は、北海道の新聞をはじめ、いくつかの全国紙朝刊で番組が紹介されたのでご覧になった方もあるかと思います。

天然記念物のクマゲラの子育て・巣立ち、更新した樹木が一列に並ぶ倒木更新、キノコまでも含めた森林生態系の仕組み、そして動植物の四季の移ろいをハイビジョンカメラ映像によって楽しむことができます。また、作家大江健三郎、棋士羽生善治、バイオリニスト千住真理子さんなど多彩なゲストによる森での語らいや散策などから番組は構成されています。しかし番組の中心はなんとと言っても「木を伐っても伐っても緑豊かな不思議の森」を支えてきた「林分施業法」とそれに基づく北海道演習林での天然林施業の紹介です。実際に職員が林況調査、現地検討会、選木調査を行う様子が豊富な映像で紹介されています。また地はぎ・補植・育林と言った様々な作業や苗畑の様子などにもスポットが当てられているほか、演習林内の林道延長がおよそ900kmに及ぶことなども語られており、北海道演習林で何が行われているのかを知

ることができる内容になっています。

放送局に届けられた視聴者からの感想では、美しい自然に感動したという声が多く、「林分施業法」あるいは天然林施業に触れられたものはごく僅かでした。森林資料館の休日開放、市民公開セミナーの開催などを通じて、今後も演習林活動のPRをしていく必要のあることを感じています。

なお、北海道演習林のほか、演習林研究部にも番組を録画したビデオテープがありますので関心のある方はどうぞご覧下さい。

(農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林)

はきわめて重要な意味をもっています。学部は、21世紀の大学にふさわしい信頼関係の新たな構築にむけ努力を傾ける決意です。旧駒場寮を出た学生諸君には、「テント村」設営などの不法行為に走るのではなく、学生と学部の不信の構造からの脱却を可能にするような理性的な行動を呼びかけるものです。学部は、1000人が住む三鷹国際学生宿舎の完成、駒場キャンパスの福利厚生施設の充実に不退転の決意でのぞみます。学生の皆さんにも、ぜひ新しいキャンパス創成に協力してくれるよう呼びかけたいと思います。

(大学院総合文化研究科・教養学部)

旧駒場寮建物明渡しの強制執行について

平成13年 9月 6日
東京大学教養学部

去る8月22日、東京地方裁判所の執行官によって、旧駒場寮建物明渡しの強制執行が行われました。東京大学教養学部は、1996年3月31日をもって駒場寮を廃寮としましたが、その後もこれに反対する学生が旧寮建物の占拠を続けるという異常な事態が5年間以上に及んでいました。この異常事態についに終止符がうたれたのです。

伝統ある駒場寮が、強制執行によって幕を閉じたことは、残念ではあります。しかし、大学の中で問題を解決するあらゆる努力が尽くされた上のことですから、裁判という法的プロセスに問題の解決を委ねたことは、大学が治外法権の場でありえない以上、やむをえない道筋であったと、教養学部は考えています。

今回の強制執行は、旧駒場寮建物を占拠した学生が、大学側の主張どおり建物を明け渡すよう命じた今年5月31日の東京高等裁判所の判決に従わず、8月8日に行われた執行官による明け渡し催告で8月21日までに旧寮建物から退去するよう求められたにもかかわらず、それにも応じなかったために行われたものです。学部は判決後もできるかぎり話し合いの努力を行いました。9回におよぶ予備交渉を重ねた上で7月12日には学部長が出席し、学生自治会・駒場寮自治会との話し合いを行い、寮自治会が「自主退去」の可能性を示唆してからは、評議員を窓口とする特別の話し合いを継続して、強制執行の直前まで、学生諸君の寮からの「自主退去」を促してきました。この努力が実を結ばなかった点は残念ですが、占拠者の退去を執行に委ねるに際して、教養学部は、大学としてなしうる努力を尽くしたと考えています。

8月22日の執行は、幸いにして大きな混乱なく実施され、警察の出動を要請せざるをえないような事態には至りませんでした。当日、執行官が現場に到着して執行の開始を宣言して間もなく、寮自治会に結集する学生およびその支援者の相当部分は寮外に退出しました。教養学部は、ここに示された学生諸君の一定の自制が、深刻な事態の発生を回避する一因になったと認識しています。

教養学部の教育研究にとって、学部と学生の信頼関係

佐々木総長が柏キャンパスの現状を視察

8月28日(火)午後2時30分から3時40分まで、佐々木総長が柏キャンパスを訪れた。

総長は、吉村柏キャンパス共同学術経営委員会委員長(宇宙線研究所長)、福山物性研究所長及び河野新領域創成科学研究科長等から、3部局の最新の成果、地元から非常に熱意のある協力が示されている産学連携事業の状況及びキャンパスの現状等について説明を受けた後、キャンパスの各施設を視察した。



物性研究所屋上にてキャンパス概観の説明を受ける総長

(柏地区事務部企画課)

堂本千葉県知事が柏キャンパスを訪問

8月29日(水)午後1時に堂本千葉県知事一行が千葉県庁の職員を伴って柏キャンパスを訪れた。

一行は吉村柏キャンパス共同学術経営委員会委員長(宇宙線研究所長)、福山物性研究所長及び河野新領域創成科学研究科長から本キャンパスの現状と将来計画等の説明を受け、知事からは千葉県と本キャンパスとの友好的な関係の実りある発展を願っている旨の話しがあり、短い時間ではあったが終始なごやかな雰囲気のもと1時30分に本キャンパスを後にされた。



物性研究所で三部局長から説明を受ける堂本知事
(柏地区事務部企画課)

海洋研で深海掘削研究船を公開

東京大学海洋研究所の国際深海掘削計画 (Ocean Drilling Project: ODP) 日本事務局では、深海掘削研究船 JOIDES Resolution号の横浜港寄港にあわせて、7月4日と8月30日に一般公開を実施した。JOIDES Resolution号は、22の国と地域の参加によって実施されているODPが運行する掘削船で、研究目的のものとしては世界で唯一のものである。ここ数年、日本近海の掘削調査を行っており、横浜港への寄港は1年ぶりである。海洋科学技術センター (JAMSTEC) の協賛の下に、ODPだけではなく、現在日本が主体となって進めている統合深海掘削計画 (IODP) に関する内容の展示も行われた。

今後は、東太平洋・大西洋の航海が計画されており、JOIDES Resolution号の日本寄港は本年が最後である。2回の一般公開を合わせて、一般見学者416名、マスコミ関係者13社が参加し、ODPへの参加経験のある研究者の案内により、約30分の船内見学ツアーを体験した。そこで特に今回は、対象者を12歳以上とし、幅広い年齢層に見学を体験してもらい、皆ツアーガイドの丁寧な説明に熱心に耳を傾けていた。

また、マスコミの取材は、毎日新聞、東京新聞、子供の科学、フジテレビ、ラジオ日本などに上げられ、海洋の調査研究の様子を紹介するよい機会となった。



船内での見学ツアー
(海洋研究所)

≡ 掲示板 ≡

第26回伊豆・戸田マラソンレースの開催

今年で26回を迎える伊豆・戸田マラソンレースをご存知でしょうか？

東京大学戸田寮 (スポーティア戸田) をスタート及びゴールとする42.195kmのフルマラソンレースです。

富士山を望む秋の西伊豆の海岸線や緑豊かな木々の中を走れる自然がいっぱいのコースです。

この機会にぜひ参加してみたいかでしょうか。

なお、レースの日程等は下記のとおりです。

1. 日 時 10月27日(土)13時40分 沼津港に集合
18時30分 開会式
10月28日(日)7時00分 スタート
13時00分 レース終了
13時45分 閉会式
16時00分 沼津港にて解散
2. 参加費 6,800円 (沼津～戸田間の往復の乗船料を含みます。)
3. 募集人数 116名 (3～5人で1組のチーム参加もできます。)
4. 賞品等 完走者 (6時間以内でゴールした者) には完走賞、優秀な成績を修めた選手及びチームには表彰状並びに賞品を贈呈します。
5. 健康診断 必ず受診してください。また、指定の時刻は厳守してください。
なお、場所はいずれも保健センター本郷支所です。
○心電図検査
10月11日(木)13時00分～
12日(金)10時00分～
13時00分～
○血圧測定、検尿、医師問診
10月23日(火)14時20分～ (女性)
14時45分～ (男性)
6. 受付 9月26日(水)より
○本郷：御殿下記念館モール階運動会受付窓口
9時30分～12時00分
13時00分～16時00分
○駒場：学生課4番窓口
9時00分～12時30分
13時30分～16時30分
7. その他 <問い合わせ先>
学生部学生課体育第一掛
(内線：22509～22511)
(学生部)

学生相談所主催「就職について考えるワークショップ」のお知らせ

学生相談所では、本格的な就職活動を目前に控えた10月末の土曜日を使って、専門の講師をお呼びし「就職について考えるワークショップ」を開催します。

就職活動の時期は、年明け頃には本格化します。‘自分はどのような職業生活を送っていきたいのか’ 明確にイメージができないまま、就職活動に突入していく場合が多いのではないのでしょうか。

就職によって始まる職業生活は30年以上続く長いものです。‘自分はどのような職業生活を送りたいのだろうか？’ ‘自分にとって働くことの意味は？’と考えることは、就職活動を行う上で必要なことではないでしょうか。本格的な就職活動を前に、「就職」についてじっくり考えてみませんか？

(注：本ワークショップは、会社選びや面接の受け方など、具体的な就職活動の仕方を知るためのものではありません。)

期 日：10月27日（土）10：00～17：00（全日参加できる方に限ります）

場 所：東京大学御殿下記念館研修室

定 員：20名（定員に達し次第締め切ります）

参加費：500円（予定、資料代）

講 師：今野能志（日本キャリア・コンサルティング研究会理事、行動科学研究所代表）

お申し込み、お問い合わせは、本郷・学生相談所（担当小林、石橋）まで。（03-3816-2759、内線22516）

（学生部学生相談所）

小石川植物園後援会主催第32回講演会のお知らせ

小石川植物園後援会主催の講演会を開催致します。第32回講演会は日光植物園で行います。今回は「日光植物園の紅葉とカエデ」というタイトルで館野正樹助教授と高橋弘行技術専門職員に講演と園内案内をしていただきます。日光植物園には日本産のほとんどのカエデが収集栽培されており、カエデの種類を学ぶにはいい機会だと思えます。また、落葉樹はなぜ紅葉や黄葉をするのか生態的な意味やメカニズムについてのお話なども伺えると思えます。この時期の園内はさまざまな植物の紅葉が楽しめると思えますので皆様お誘い合わせのうえ奮ってご参加ください。

講師：館野正樹（東京大学大学院理学系研究科附属植物園日光分園助教授）

：高橋弘行（ 同上 技術専門職員）

日時：平成13年11月3日（土）午後1時～3時

場所：日光植物園内（栃木県日光市花石町1842

TEL0288-54-0206）

参加ご希望の方は、10月29日（月）までに往復ハガキにて世話人の下園までご連絡ください。今回は人数制限はありません。

〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1

東京大学大学院理学系研究科附属植物園内

小石川植物園後援会

世話人：下園文雄 TEL03-3814-0294

（大学院理学系研究科・理学部）

東京大学物性研究所国際シンポジウム

一般講演会

東京大学物性研究所では来る10月6日（土）に千葉県柏市・柏市教育委員会との共催によりR.B.Laughlin博士（スタンフォード大学教授・1998年ノーベル物理学賞受賞）、秋光 純博士（青山学院大学教授）の両名をお迎えして、「国際シンポジウム一般講演会」を開催することといたしました。

ここに御案内申し上げますとともに皆様のご来場をお待ちしております。

〈プログラム〉

東京大学柏キャンパスにおいて国際シンポジウムが開かれるのを機会に、一般向けの講演会を開催します。さまざまな物質の構造や性質を物理の基本原則から解明する理論の開拓（講演1）、新しい超電導物質を発見するまでの興奮と驚きの道のり（講演2）など、現代の物質科学研究の最前線を、第一線で活躍する研究者に紹介してもらいます。

と き：10月6日（土）午後2時から5時まで

と ころ：さわやか県民プラザ

定 員：400人（先着順、入場無料）

挨拶 本多 晃 柏市長

はじめに 福山 秀敏 東京大学物性研究所所長

講演 1 「Self-Organization of Matter」

（物質の自己組織化）

R.B.Laughlin 氏（スタンフォード大学教授1998年ノーベル物理学賞受賞）

講演 2 「超伝導の夢を追って」

秋光 純 氏（青山学院大学教授）

司 会： 八木 健彦 氏（東京大学物性研究所国際交流委員長）

※ 講演1は、英語による講演です（日本語による要旨を配布します）。

主 催：柏市・柏市教育委員会・東京大学物性研究所

問い合わせ 柏市企画部企画調整課 TEL0471-67-1117

ISSP International Symposium
Public Lecture

On the occasion of the first ISSP International Symposium at Kashiwa Campus, the Public Lectures have been organized. The first one by the 1998 Nobel Laureate addresses the exploration of the basic principle of physics to understand the diversity of properties of matter, while in the second one the discoverer of a new superconductor will tell his inside story and the joy of the pursuit of new materials.

The first one will be given in English with block translation and the second one in Japanese.

Date: October 6 (Sat) 14:00-17:00

Place: Sawayaka Kenmin Plaza

Seats: 400 (Admission Free)

Sponsors: The City of Kashiwa, The Education Committee of Kashiwa, ISSP

Program

Greeting The Mayor of Kashiwa : A. Honda

Introduction Director of ISSP : H.Fukuyama

Self-Organization of Matter (English)

Professor R.B. Laughlin

Stanford University, 1998 Nobel Laureate in Physics

Chasing the Dream of Superconductor (Japanese)

Professor J. Akimitsu

Aoyama Gakuin University

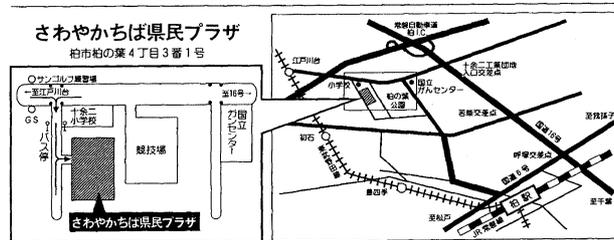
Chair: Professor T. Yagi (Office of International Affairs, ISSP)

ISSP: Institute for Solid State Physics, University of Tokyo

For information:

0471-67-1117 (City of Kashiwa) or 0471-36-3230 (Professor Yagi)

交通案内



◇JR常磐線/東武野田線◇ 柏駅西口から東武バスの番乗り場「柏の葉公園」行きまたは「柏の葉公園」行き約20分「柏の葉公園」下車徒歩1分
◇自動車◇ 国道16号(十倉二工業団地入口交差点)から約5分(駐車場182台(うちバス4台))

(物性研究所)

夏季休業期間における診療の一部変更について

学生等の夏季休業期間における診療・健康診断日程につきましては「学内広報、2001. 7. 25. NO. 1219」でお知らせしたところでありますが、当センターの事情により当初日程と若干のずれが生じ、利用者にはご不便をおかけいたしました。

今後は学会等で休診の際は事前にホームページ (<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/uthealth>) と可能な場合は学内広報でお知らせしますのでご利用下さい。

(保健センター)

インテリジェント・モデリング・ラボラトリー オープンハウス (一般公開) の開催について

インテリジェント・モデリング・ラボラトリーでは、全学的な協力体制のもとにベンチャービジネスの萌芽ともなるべき独創的な研究開発の推進や、創造性・実践性豊かな若手人材を育成することを目的とした活動を行っています。このたび、下記の通り一般公開を行います。当日は、バーチャルリアリティ技術を応用して自然界には存在しない現象や現実に達成できない極限的状况を身近に触れていただくデモンストレーションなどを予定しております。学内外の研究者、技術者はもとより、起業にご関心の方、一般の方、学生の皆さんなど多数のご来訪を心よりお待ちしております。

日時: 10月19日(金)、20日(土) 10時~16時

(上記時間内に自由にご見学いただけます)

場所: 東京大学 インテリジェント・モデリング・ラボラトリー棟 2F~6F(文京区弥生1-1-1)

展示内容:

- ・知的モデリング支援装置および大型三次元画像処理装置によるデモンストレーション
- ・プロジェクターおよびパネルによる研究紹介

本件に関する問い合わせ先

インテリジェント・モデリング・ラボラトリー 小野
電話03-5841-8982 Eメールkeno@iml.u-tokyo.ac.jp
(インテリジェント・モデリング・ラボラトリー)

大学史史料室の休室のお知らせ

平成13年10月11日(木)から平成14年3月末日(予定)までの間、大学史史料室は改修工事のため、休室といたします。

≡ 噴水 ≡

医科研の生き物たち

医科研の構内には20種以上の樹木が根づいている。大きな木が数多くあって、都心にある緑地や公園と同じ様な自然が、まだ医科研には残っている。医科研の「自然」に興味を持っている私は、構内をフィールドにして朝・夕の行き帰りや昼休み、それに日直・宿直の巡回時間などを利用して、生息している生物について姿、鳴き声など見聞きするだけの簡単な観察をかなり前から続けている。以前に比べると医科研でも研究棟の建設等で生物の生息環境が狭められてきた。しかし、今でも構内を生息場所として利用している生き物は多い。そこで、ここに私が今までフィールドで記録することができた哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類などを紹介する。まず最初は哺乳類から、私が記録したのはアブラコウモリ、ドブネズミの2種だけ。例外として構内には数匹のノラネコらしいものが生息しているで、全部で3種になるかも知れない。しかし私がドブネズミを観察したごみ捨て場は新しい研究棟建設のために撤去されてしまった。

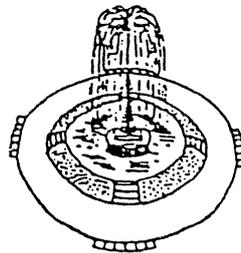
鳥類について、一年間を通して記録できたのはスズメ、ハシブトガラス、キジバト、(ドバトの方は野鳥では無い) ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ、ムクドリ、ウグイス、モズ、ジョウビタキ、カワラヒワ、ツバメ、ハクセキレイ、ツグミ、オナガのほかにはコゲラ(1997年頃から)新しく仲間に加わって全部で16種になった。都心の公園や庭などで普通に観察できる鳥ばかりで特筆する種はいない。ただコゲラは森林地帯から都心の方まで生息地域を広げてきたキツツキで、年に1回ぐらい観察できればラッキーだ。ここに追加したい種がいる。多分これが最初で最後の記録になると思うが、一号館の中央出入口の前にある池のところでアオサギ1羽(2001年2月20日)を観察したので、正しくは15科17種である。フィールドで繁殖

(ヒナや巣など)が確認できたのはキジバト、ハシブトガラスの2種だけであった。ちなみに2001年5月にハシブトガラスの新しい巣を2個みつけた。

両生類はヒキガエル(正式和名アズマヒキガエル)だけ。私はフィールド内にある池でオタマジャクシの姿を捜し求めているが、まだ確認することができない。フィールドにいるヒキガエルは医科研生まれなのか、それとも他の場所から移動してきて住みついたものなのか。とにかくヒキガエルに関しては謎の部分が多く、それに夜行性なので生態について調べることも思いどおりにはいかない。そんなヒキガエルが好んで住みついていた野原に駐車場や研究棟などができて、生息地域が狭くなり、今の構内はヒキガエルにとって大変住みにくい場所になってしまった。幻の動物になりつつあるヒキガエルのこれから先の生存のことが心配だ。

両生類は1種だけであったが、爬虫類の方は4種もいた。そこで4種の爬虫類を分類してみるとヘビ類はアオダイショウの1種、ヤモリ類はヤモリ(ニホンヤモリ)の1種、トカゲ(ニホントカゲ)、カナヘビ(ニホンカナヘビ)の2種となった。アオダイショウと夜行性のヤモリはフィールド内でも、ごく狭い限られた地域だけにしか生息していない。そのうえ観察できる個体数も1, 2匹ぐらいと少なく、出会う機会もあまりないので、姿を見るのが難しい動物である。ところで、トカゲ2種は同じ様なところに生息しているものと考えていたが、フィールドで目撃するのはカナヘビの方が多く、なぜかトカゲは少ない。昼間活動するトカゲ類について一度本格的に調査をしたいと思っている。

(医科学研究所 鈴木 智明)



蚊帳の効用

この季節になると、ふと長塚節の短歌「垂乳根の母が釣りたる青蚊帳をすがしといねつたるみたれども」を懐かしく思い出す。昨今、蚊帳と書いて「かや」と読める若者は少ないであろう。昭和30年代にはどこの家庭でも普通にみられた蚊帳が、クーラーや網戸の普及に伴い身の周りから急激に姿を消し始めたのは昭和40年頃からというから、むりからぬ話である。四半世紀前からアフリカや東南アジアの熱帯地域で調査研究に数年を過ごした経験のある私にとって、現地で蚊帳のない生活はとても考えられないし、この間一度もマラリアに感染せずに健康でいられるのは、まさに蚊帳の恩恵と思っている。

この数年、地球上で起こっているさまざまな環境問題、とりわけ熱帯地域における森林・土壌の劣化や水問題等に関心を寄せる学生も多い。このこと自体は大いに歓迎すべきことであるが、それに伴い調査研究で現地に長期間滞在する教



官・学生の数も確実に増大しており、現地での病気や事故の増加が懸念される。なかでも、熱帯・亜熱帯地域を研究対象地とする場合は「熱がでたらまずマラリアを疑え」といわれるよう

に、マラリアについての必要最低限の知識と予防対策が不可避となる。最近、学内でも教官・学生を対象に「海外における安全管理」について講習会等も開催されるようになったが、私の経験から、現地での調査研究の際にはそれぞれの土地で最も有効なマラリア予防薬の服用は言うまでもないが、安

眠を保証し、マラリア感染から身を守る有効な手段の一つとして一人用の蚊帳の携行・利用を大いに推奨したい。

東京大学関係では医学系人類生態学教室 (<http://www.humeco.m.u-tokyo.ac.jp/~minato/mO.htm>)、医科学研究所 (<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/didai/malaria3-0.html>) からマラリアに関する有益な情報がインターネットを通じて発信されている。是非ご一読をお薦めしたい。

モンキーパズル (筆名)

(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

[次号の原稿締切]

10月3日(水)午後5時

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No 1221

2001年9月27日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>